# 東京国際フォーラム

Tokyo International Forum

所在地/東京都千代田区丸の内3-5-1

建築主/東京都

設計者/ラファエル ヴィニオリ建築士事務所

株式会社椎名政夫建築設計事務所

株式会社現代建築研究所

施工者/株式会社大林組

鹿島建設株式会社

安藤建設株式会社

株式会社錢高組

五洋建設株式会社

株式会社藤木工務店

株式会社森本組

株式会社地崎工業

勝村建設株式会社

大成建設株式会社

戸田建設株式会社

清水建設株式会社

株式会社間組

鉄建建設株式会社

日産建設株式会社

三菱建設株式会社

大木建設株式会社

小田急建設株式会社

Location/Chiyoda-ku, Tokyo

Owner/Tokyo Metropolitan Government

Architects / Rafael Viñoly Architects P.C.

Masao Shiina Architects

**GKK Architects & Engineers** 

Contractors / Obayashi Corporation

Kajima Corporation

Ando Corporation

The Zenitaka Corporation

Penta-Ocean Construction Co.,Ltd.

Fujiki Komuten Co.,Ltd.

Morimoto Corporation

Chizaki Kogyo Co.,Ltd.

Katsumura Construction Co.,Ltd.

Taisei Corporation

Toda Corporation

Shimizu Corporation

Hazama Corporation

Tekken Corporation

Nissan Construction Co.,Ltd.

Mitsubishi Construction Co.,Ltd.

Ohki Corporation

Odakyu Construction Co.,Ltd.



東側からの空撮 Aerial view on the east.



JR高架越しの東側外観 Eastern exterior seen over the elevated railways.



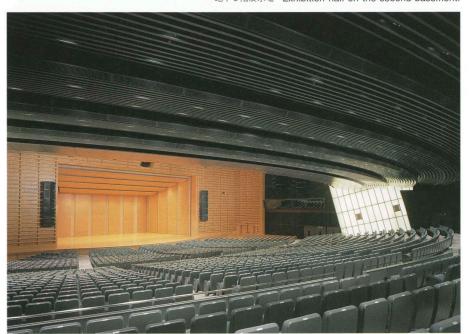




A ブロック 2 階ロビー Lobby on the second floor of the A-block.

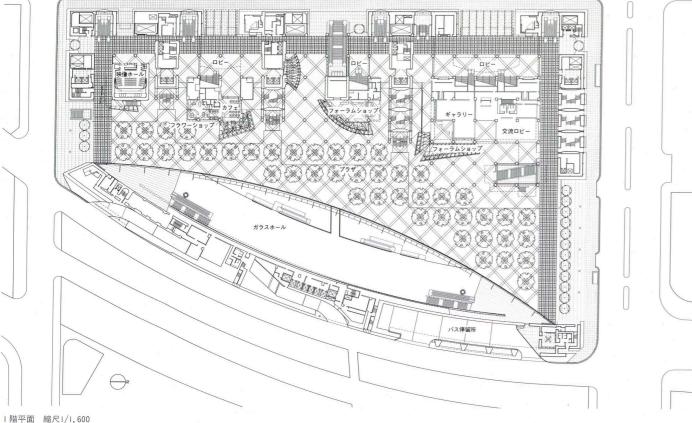


地下 2 階展示場 Exhibition hall on the second basement.



左:ガラスホール南側を見通す left: Gigantic Glass Hall.

ホール A の内部 Interior of the hall A.



# 建築概要

敷地面積 27,375m²

建築面積 20.951m²

延床面積 145.076m

階数 ホール棟:地下3階 地上11階 塔屋1階 ガラス棟:地下3階 地上7階 塔屋1階 構造 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨鉄筋コンクリ 一卜造(地下) 鉄骨造(地上)

工期 1992年10月~1996年5月

#### 仕上げ概要

## 外部仕上げ

屋根/アルミパネル 網入りガラス 外壁/御影石 打込みPC版 アルミパネル 透明ガラス 開口部 /アルミサッシュ アルマイト仕上げ フッ素焼付 け塗装 倍強度合わせガラス⑦8mm+⑦8mm フロ ートガラスア15mm・ア19mm・ア22mm 外構/御影石 打込みPC版 浮床構造

## 内部仕上げ

#### ◆ホールA

[舞台] 床/ヒノキフローリング 壁/グラスウー ル ガラスクロス [オーケストラ席] 床/カーペ ット 壁/メタルルーバー 木練付け(イタヤカエ デ)光壁(ガラス) 天井/アルミフィンパネル PB EP [バルコニー席] 床/カーペット 壁/ 光壁 アルミグリッド 天井/アルミグリッド [1階ロビー] 床/御影石 光床 壁/ガラス ア ルミパネル HMC 石 天井/アルミパネル HMC ソーラトンキューブ

## ◆B棟 5階

[レセプションホール] 床/カーペット 御影石 壁/木練 ガラス 天井/有孔アルミパネル [ロ ビー] 床/カーペット 御影石 ステンレス 壁/ アルミパネル 御影石 ジュラク壁 HMC PB EP 天井/ステンレス PB EP

[地下1階コンコース・ギャラリー] 床/御影石 壁 /御影石 光壁 天井/アルミパネル(アルマイ ト) ガラス天井システム

空調 方式/ゾーン別セントラル方式 外調機+フ アンコイルユニット方式 自動再生フィルター方式 熱源/冷熱センターより冷水・温水・蒸気を受給 排 気/エアジェット方式(駐車場) 排煙/機械排煙 自然排煙(アトリウム) 自動制御設備/DDC制御 PMV制御振動監視設備

衛生 給水/上水(飲料用):受水槽より加圧給水 方式 雑排水(便器等洗浄用):排水再利用水槽よ り加圧給水方式 給湯/中央給湯方式(地冷センタ ーより蒸気熱源) 太陽熱給湯 排水通気/汚水・厨 房排水・雑排水・雨水の4系統(汚水:一部夜間放流

厨房排水・雑排水・雨水: 貯蓄再利用 ループ通気 方式 排水処理/冷却塔ブロー水・雨水・雑排水・ 厨房排水(前処理後):活性汚泥 限外ろ過処理 厨房/厨房機器 ごみ処理/雑芥・厨芥:中間処理 再利用用紙・ビン及び缶分類 ガス/低圧ガス 中

電気 受電方式/3φ3W22kV 本線子備特高変圧 器 7,000kVA×2台 自家用発電/ガスタービン 発電装置 1,500kVA×2台 2,000kVA×1台 直流電源/鉛蓄電池 UPS設備 太陽電池 中央 監視設備/集中監視 ビルマネージメント 防災セ ンター設備 幹線動力/CVケーブル CVTケー ブル 電灯・コンセント/照明及び制御システム 非常照明 誘導灯 弱電設備/非常·一般兼用放 送・インターホン 電気時計 ITVテレビ共聴 CATV 防犯中継放送 無線通信補助 駐車場管 制難聴者補助 入場者把握 同時通訳

防災 消火/屋内消火栓 スプリンクラー 泡消火 水噴霧 CO<sub>2</sub> 消火用水 連結送水管 その他/自 動火災装置(インテリジェント防災システム) 防 非煙 ガス漏警報

昇降機 エレベータ/乗用×33台(身障者用×15台 非常用×5台)+荷物用×6台 エスカレータ/52 台(車椅子用×2台+3枚ステップ×22台)

特殊設備 LAN 映像情報 舞台(音響・照明)

旧都庁の位置に、東京都の新しい文化活動、国際交流の拠点 をつくるべく、国際建築設計競技によって選ばれた案が、10 年の歳月を経て実現したのがこの作品である。

複雑な計画的条件と、高い都市性の要求される敷地条件に対 して、設計者は、すでに競技設計応募案において、明快なコン セプトを提示し、その卓越性は誰もが認めるところであった。 すなわちこの設計案の基本構成は、大小4つのホールを空中に 浮かせて、その大きさの順に敷地の北側に並べ、一方反対側の 鉄道線路側に、レンズ形の透明な壁に包まれたロビー棟を配し、 このふたつのブロックを機能的要求に従って、空中廊下で結ぶ というものである。その結果、中央部に、東京駅と有楽町駅を 結ぶ、歩行者のための魅力的なオープンスペースが生み出され、 またロビー棟は都市中心の公共建築のもつべきシンボル性を獲 得するものとなった。この作品は、競技設計案の特性を、確固 として保持しつつ、さらにそのコンセプトを、細部にわたるデ ザイン、技術的検討によって練り上げ、そして完成したもので ある。

大ロビー空間であるガラスホール棟の空間は、視線の透過す る透明性をいかに実現するかが決め手となる。設計者は、この 空間に、竜骨のような構造体で覆われ、精密なガラス皮膜によ って包まれるという卓抜な形態を与えた。そしてその形態に対 し、施工者は、ジャッキダウン工法による高密度な施工を達成 した。このような設計と施工の両面における細心の配慮と解決 は建物の随所に見られ、この作品を完成度の高い充実したもの としている。大小4つのホールが、互いに隣接して配置されな がらも他を乱すことなく、それぞれの特性が見事に確保されて いるのもこうした設計者、施工者の技術的創意と努力の結果で ある。

設計者は、先に述べたように、国際建築設計競技によって選 ばれた外国人建築家であるが、実施設計においては、それにさ らに日本人建築家が加わった国際的な協働体制が組まれた。こ の作品が、コンセプトにおいて大胆で明快な構成をもち、そし て細部にわたって洗練された造形として完成したことは、その 構成メンバーの能力の高さとそのチームワークの適切さを示し ているといえよう。

この建物が、今後どのように人びとに利用され、都市のなか で生き続けていくのか、その施設のあまりもの巨大さゆえに、 その可能性、あるいは将来性を現時点で正確に見通すことは不 可能であるようにも思われる。しかしながらこの建築が、 1990年代の日本における建築的達成を、最も鮮やかに示す作 品であることは間違いない。

This work is the realization after ten years of the winning proposal in an international architectural competition for a new center of cultural activities and international communication in Tokyo to be built on the former site of city hall.

In response to complex planning conditions and to site conditions that demanded a work of pronounced urbanity, the architect suggested a clear concept in his competition proposal. and everyone recognized its excellence. The scheme is basically organized in the following manner. Four halls with different capacities are lifted in the air and lined up in sequence according to size on the north side of the site, and on the opposite side, which parallels railway tracks, is arranged a lobby building, convex lens-shaped in plan and wrapped in a transparent wall. These two blocks are joined by midair corridors as functional considerations dictate. The result is the creation in the middle of an attractive pedestrian space linking Tokyo and Yurakucho stations. The lobby building has the symbolic character that a work of public architecture in the center of a city ought to possess. The work retains the distinctive qualities of the competition proposal, while the concept has been elaborated and perfected through detailed design and technical studies.

The success of the space in the glass hall that serves as the large lobby depends on the way in which transparency is achieved. The architect gave this space an excellent form, endowing it with a structure resembling a keel and wrapping it in a fine membrane of glass. The building contractor succeeded in producing a work that is finely built, even in its smallest details, through the jack-down method of construction. Consideration and solution of even the smallest details in both design and construction are evident everywhere in the complex and result in a work of great substance. Thanks to the technical creativity and efforts on the part of the architect and the building contractor, the four halls, despite being arranged in tandem, do not disturb each other; each in fact is allowed to be quite distinctive in character.

The architect was a non-Japanese architect selected through the above-mentioned international competition. In the preparation of construction documents a Japanese architect participated as well in what became an international collaborative endeavor. The bold and lucid organization of the work and the refined formal character of the details indicate the high level of skill of the members of the team and the fine way in which they worked together.

It is impossible to predict the future of this facility—that is, how people will use it, and how it will continue to function in the city—because of its enormous scale. However, this is undeniably the work that most clearly indicates what Japan is capable of achieving architecturally in the 1990s.